

小さな小さな農福連携で大きな価値に出会った！

活動の経緯

2020年4月に娘の小学校入学と義理母が一人暮らしになった事を機に山梨県大月市へ移住する事が決まっていた。その家の周りに耕作放棄地が沢山ある事に焦点を当て本業が介護福祉士でもあったので、この畑を活かして障害者就労支援（B型作業所の工賃UP）、子ども食堂やフードパントリーなどを含めて、社会課題解決のお手伝いになればと農福連携を目的に畑を耕し始めました。

活動の概要

農福連携で野菜を販売・六次産業化を実施、その利益で認知症啓蒙イベント開催。子ども食堂へ野菜を寄付。



就労支援B型作業所による
収穫（貸し農園にて）



6次産業化

活動の成果、実績等

①就農:2020年4月に小さな畑（コノファームと名付けました）をお借りし、山梨県農業振興公社（シニア研修）、大月エコの里（貸し農園）、山梨県農福連携推進センター、大月市役所の4拠点に相談しながら、農業を開始。

2021年1月には、大月エコの里から貸し農園をお借りして2反ほどになりました。

2021年6月には、山梨県農福連携推進センターの紹介で、大月市内の就労支援B型作業所にお越し、農福連携でのジャガイモの収穫と畑整備を実施出来ました。

②6次産業化:この年に就労支援B型作業所3拠点に畑で栽培した野菜のパウダーでスイーツを作って頂く事になり六次産業化を開始しました。

2022年山梨農福連携推進センターの繋がりです山梨県農福連携推進協議会へ会員登録し、農福むすび（農福マルシェ）へ参加し六次産業化のスイーツや野菜の販売も開始。

2023年、畑（コノファーム）も3反ほどになり就労支援B型作業所への農作業依頼も増えています。

（・2021 12名・2022 42名・2023 56名）

2024年、畑（コノファーム）も4反弱となり、認定農業者に登録。就労支援B型作業所への依頼以外に障害者福祉施設の活動での農作業の依頼も開始しました。B型作業所&福祉施設も最低賃金以上でのお支払いを実現。新たに野菜パウダーでクッキーを開発。

③農福・地域貢献:野菜&スイーツの販売利益で、今年度9月にRUN伴（ランとも、特定非営利活動法人認知症フレンドシップクラブが提案する、地域の住民や企業、商店などが認知症を生きる本人や家族、医療福祉関係者などと一緒にタスキをつなぎながら走るイベント）を開催予定です。みんな同じ！が、創業からのこだわりです。

畑を通して一般企業等で雇用が困難な皆さんに焦点を当て障害者雇用や地域活性化のお手伝いをし更なる地域貢献を目指しています。